

推薦入試における数学・英語の 口頭試問について

【会場】 (受験生の移動)

学科別の控え室

⇒ 筆記試験会場（数学）

⇒ 面接会場（数学）

⇒ 次の面接会場（英語）

※移動はすべて係員が誘導します。

【手順】

受験生は、学科で別に控え室で待機します。

⇒ 筆記試験会場に移動します。（5分ごとに1名）

⇒ 10分間の筆記試験を受けます。

⇒ 問題を持って面接会場に移動します。

⇒ 5分間の口頭試問を受けます。

⇒ 受験生は退出し、英語の面接会場へ移動します。

⇒ 5分間の口頭試問を受けます。

※移動はすべて係員が誘導します。

【数学面接とその評価について】

昨年度までは、以下のようにしていました。

- 面接会場に入室したら、面接員の指示に従って行動してください。
- 受験生は、面接員の指示に沿って、口頭で解答を伝えます。面接員はこれをもとに基礎的な数学力を評価します。
- 解き方の説明を求めることがあります。受け答えや説明の仕方も評価の対象となります。
- 解答の確認が済んだあと、数学に対する興味などを聞くことがあります。

【英語面接とその評価について】

昨年度までは、以下のようにしていました。

- 最後の一問を除いて全て英語で行われました。
- 最初に簡単なあいさつ程度の会話を行いました。リラックスさせるためのものです。
- 課題文を20秒間黙読した後、音読をさせました。発音、ポーズ（間の取り方）、イントネーション等を評価します。
- 音読の後、内容について2問、英語で問われました。質問はwh-疑問文でした。
- 第3問は、動詞の活用についての問題でした。この問題は日本語で発問しました。